

令和元年度 学校評価

武蔵越生高等学校

(令和2年6月27日)

目指す学校像	グローバル化した国際社会のなかで良き形成者・リーダーとして心豊かで実践力のある人間を育成する学校。		学校関係者評価は、PTA 役員、後援会役員、同窓会役員、学園評議員からなる学校関係者評価委員会による。
本年度の重点目標	1 学力の向上と進路の保障 2 礼儀正しい態度の養成 3 クラブ活動の育成強化 4 地域との連携強化	学ぶことの大切さ、理解することの喜びを体得させ、生徒の実態にあった指導を研究し、魅力的で実力のつく授業の展開を図る。 社会の中の一員としての自覚を持たせ、自分を律していくことで自他の心を大事にする必要性をわからせる。 生徒の特技や情操を高め、心身の健全な成長を図ると共に、愛校心を育てるためクラブ活動を重視し育成強化していく。 地域の文化の砦としての信頼を得ると共に、積極的に交流を深め、地域の活性化の一躍を担う。	

年度当初			最終評価に向けて					
番号	評価項目	現状	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況等	令和2年度への課題と改善策	学校関係者評価	
1	●学力を上げる。 ●学習環境の整備	●クラス内生徒の学力幅が広い。全コースで学力偏差値はすこしずつ上がっている。それぞれの学力レベルの生徒に対して学力向上に向けた施策、工夫の余地がある。 ●生徒の知的好奇心の向上や学習意欲を上げるための学習環境の整備について更に進める必要がある。	●大学入試改革に準ずる授業の質の改善を目指し定期試験、外部模試、検定試験等で結果が出るような取り組みを推進する。●スタディサプリの積極的活用。 ●教科会の活性化。●成績の統計調査。●学年共通問題の徹底。●講座授業参加への働きかけと基礎講座の充実。検定合格率調査の実施。●実力試験の結果分析とフォローアップ●教科主任会、コース委員会の積極的実施。●学習施設、学習環境の整備。●三者面談、二者面談の実施。●生徒理解アンケートの有効活用。●教員研修の回数を増す。	●各施策が確実に実行されたか。 ●外部模試等の成績が上がったか。 ●各種検定試験の合格率が上がったか。 ●学習施設や学習環境の整備が行われたか。	●教科会を毎週開会。成績単票の統計調査を実施し、教員間の成績格差は正と適切な評定平均値となった。●5教科主任、コース委員長連絡会を開会し生徒の学力向上に向けた取り組みにより実力試験において3学年全コースと1.2年生選抜Iコースは全国平均を上回る伸びがあった。しかし、学校全体で昨年度との平均の比較をするとマイナス5点という結果であった。特に選抜IIコースでの対策が必要である。英語検定試験の合格率アップについては課題が残る。	A	●スタディサプリの定着を目的としてオリエンテーションを実施。また、定期的な課題配信。家庭学習の充実。●定期試験前に事前講座の実施。●基礎学力のさらなる定着を目的し選択講座をリニューアル。●教員教材の充実を図りわかる授業作りに努める。●生徒理解、指導力のスキルアップを目的とした教員研修を増やす。	●基礎学力は生きる力に通じる。さらに子供たちの力がつくよう努めてもらいたい。●学期の成績について、共通問題の出題、教科会等でのレベル合わせで、クラス間格差の是正に努めたのはよい。●今後学校のネットワークの環境整備と同時進行で個人のタブレット導入も検討されると思うが従来の教室での一斉授業のメリット、ICTの利点を生かした併用型の学校教育が望まれる。
	●生徒個々の適性を見極め、将来有益な人材として活躍できるよう指導する。	●多様な進路を目指す生徒がいる。大学の定員充足率の是正により、大学入試が厳しくなっている。 ●大学・短大進学率が前年度より低下した。	●Rキャンプの有効活用。●大学入試説明会で得た情報を職員に情報提供をする。●年次の目標設定を明確にする。●生徒との面談を通して、多様な学部学科の情報を共有し入試に対応する。	●適切な進路情報を提供し、生徒のモチベーションを上げられたか。 ●4年制大学進学率を概ね75%以上に行けるか。	●進路に関わるイベントを順調に進めることができた。●進路関係の情報提供空間を拡充し利用しやすい環境づくりに努めた。●現役四大、短大進学率は64%(昨年度63%)中堅私大日東駒専の合格者は昨年を上回ったが上位大学は厳しい結果となった。	A	●既存のイベントのブラッシュアップを図る。●1、2年生の進路意識を高めるガイダンスを強化する。進路通信の発信。●大学入試共通テストに向けた対策強化。●指定校推薦の有効利用。●成績データのより精度の高い分析による適切な受験校指導の構築。	●進学実績についてはコースごとの目標を達成させることが望ましい。
2	●挨拶、礼儀、校内美化、授業規律の習慣化。 ●いじめ防止、撲滅に向けての活動。 ●SNS、携帯依存の問題への取り組み。	●挨拶ができない生徒や言動の幼い生徒もいる。 ●SNS上のトラブルがおきた。 ●生徒指導上の諸問題に対応する改善策が求められている。	●面談期間を設定し生徒理解に努める。●乗車指導、頭髪服装検査、身嗜みセミナーの実施。教室の清掃状況チェック、部室点検を定期的に行う。●生徒理解アンケートを活用しいじめや心の悩みに対し早期に発見改善に導く。	●積極的な挨拶が励行ができていないか。 ●生徒理解アンケートを活用し問題を未然に防ぐことができたか。 ●SNS や携帯電話の正しい利用ができていないか。	●挨拶をはじめとする礼儀に対する意識を高めている。●いじめ問題撲滅にむけて、アンケート、担任面談やカウンセラーの面談を活用し努めた。●SNS トラブル防止に向けたネットパトロールを導入し啓蒙活動に努めた。●指導件数は昨年度から30%減少した。	A	●生徒が生活しやすい学校生活の追究。●いじめ等 인권問題についての意識を高める指導を目指す。●ネットパトロールによる誹謗中傷等の抑止力強化とネットのより良い共存の学習。	●生徒指導に王道なし。地道な取り組みを継続していくしかない。●身嗜み検査については先生により差があるという話もある。レベル合わせを入念にしてもらいたい。
	●生徒の心身を鍛え、特技・特性を伸ばし、集団の一員として行動できるようにさせる。	●学校行事に積極的に参加し、取り組むことができていない。 ●部室の清掃、施設等自治活動の確立において更に向上が求められる。	●運動部集会、クラブ顧問会の実施。●HRを通してリーダーや係などで仕事の責任を持たせる。●クラブ日誌の活用。	●自治活動が推進できているか。 ●学校行事が成功しているか。 ●大会の成績が向上しているか。	●体育祭、文化祭、予餞会とすべての行事に子供たちが積極的に参加し、よい雰囲気を作ってくれた。●クラブ日誌を活用し生徒の自治活動に努めた。●文化部の地域貢献、全国大会表彰等新しい流れと実績ができていない。	A	●クラブ顧問会の定例化を進め部活指導のスキルアップと関係を強化していく。●挨拶礼儀など基本的な生活習慣を通して精神的な成長を目指す。●地域貢献など部活動を通じて視野見聞を広げる。●入りたいクラブが見つからない生徒に対する指導。	●各クラブがそれぞれそれぞれの目標に向かい努力している。●新型コロナ禍の影響で部活動の中止、試合の中止が相次いだが、思い出作りの側面もあるので代替のイベントを学校でも検討したらよい。
4	●父母の期待、地域のニーズを理解し、協同・協力が出来、他人のために行動がとれる心を育てる。	●PTA、後援会の連携により、学校行事、教育活動の運営に成果を上げている。	●保護者の声を聞き、そのニーズに応える。 ●運営上のスリム化によるリスクに対応する。	●保護者の学校への信頼度が高まったか。 ●PTA 関係行事が円滑にできたか。	●私学振興大会や、体育祭などの学校行事への積極的な参加によりイベント全体の向上につながった。●後援会による環境美化活動を8月、10月、11月を実施していただいた。	A	●PTA 活動で保護者の声が生かされるような運営について検討したい。●PTA 研修会の見直しと内容の充実。	●2年後の創立70周年に向けて今から準備を進めてください。

達成度 A:ほぼ達成(80%) B:概ね達成(60%程度) C:変化の兆し(40%前後) D:まだ不十分(40%未満)